

3月23日(日)

広島サーモン盛り

広島生まれ広島育ち



1パック

980 (税込) 円



西田鮮魚店

872-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍



西田鮮魚店スタッフ 藤永 咲也

食べ合わせに飽きないよう、刺身や握りや巻き寿司にして、私には堪らない逸品となっております。
是非、ご賞味下さい！

皆さん、お久しぶりです！藤永咲也です。
去年の3月から西田鮮魚店でパートを務めさせていただき、はや1年。今年の4月から西田鮮魚店で正社員になることが決まりました。この1年間で色々学ぶことが沢山あり、これから正社員として新しいステップに上がるので、新たに一から気合い入れて皆様との接客や仕事を精進して参ります！
さて、今回の広告は「広島サーモン」を使った寿司と刺身の盛り合わせです！
ほかのサーモンと何が違うかと言うと、なんとと言っても「広島サーモン」は余分な脂が少なく、弾力のある歯ごたえかつ上品な味が特徴！私は小学生の頃、回転寿司に行ったらサーモンの握りだけを30皿頼む程のサーモン好き！そんなサーモン好きの私も、今のサーモンは脂が多すぎてあまり食べられない。そんな悩みを解決してくれたのはこの「広島サーモン」でした。

『カーリングと、ぼもニュージカル』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

I 新プロジェクトX 見逃した前半を見る
前回、『新プロジェクトX』挑戦者たち『カーリング極寒の町に熱狂を〜じっちゃんを夢をくれた〜』が、おもしろかったと書いた。

あれは、3月8日に放送されたもの。たまたま途中から見た。だから前半は見えていない。いつかチャンスがあれば見たいと思っていた。

それが、一週間後の15日に再放送された。

朝、新聞のテレビ欄を見て気づいた。前回書いたエッセイが翌日16日の新聞に折り込まれる。ちょうどよかった。

放送の前半では、夢をくれた『じっちゃん』の小栗祐治さんが、カーリングに巡り合ったいきさつから、子供たちに広めるまでのことが描かれていた。

II カーリングに魅せられる

小栗さんはボーリングが趣味だったのだそう。しかし、一時の爆発的なブームが落ち着くと常呂の町からボーリング場が消えてしまった。悶々とする小栗さんだった。その点、庄原には伍楽荘ボウルがある。ありがたいことだ。

それはともかく、そんな昭和55年、51才の小栗さんはカーリングの講習会に参加した。そして、ボーリングの代わりは「これだ」と思った。

似てるといえば似ている。ボーリングとカーリング。

ボールを勢いよく転がしてピンを弾き飛ばすボーリング。

ストーンを滑らせ相手のストーンを弾き出すカーリング。

同じ弾くにしても、ボーリングの『カーリン』というダイナミックな音と、カーリングの息をのむ静寂の中での『コッ〜ン』とは、その醍醐味がえらく違うのではと思うのだが、小栗さんには、同じようなものだったのだろうか。

とにかく、小栗さんはカーリングに魅せられていった。

III 手づくりと仲間づくり

今でもそうだろうが、カーリングの道具なんて、その辺のスポーツ用品店には置いてない。アルペンとかゼビオの大型店でも見たことがない。

それも40年前だ。いかに水を撒いて放っておけばスケートリンクができる酷寒の町といえど売ってはいなかった。

そこで、小栗さんは道具を手作りした。

ビール樽に砂と水を詰め、取っ手をつけたものやボンベの一部を加工してストーンを作った。あのストーンの前をスウィーピング(というらしい)するブラシも竹ぼうきだった。

大の大人が、大まじめに、それを手にして見よう見まねでゲームをした。叱られるだろうが、笑ってしまふ。たぶん、まわりの人も、そんな感じじゃあなかったのだろうか。

ところが小栗さんのスゴイところは、ここからだ。

まわりの人たちを誘った。だれも本気で聞いてくれなかった。それでも誘った。あまりの熱心さとしつこさに一人二人と付き合う人がでてきた。すると、これが案外おもしろかった。そうして、大人たちの間で広がっていき、町内大会を開くまでになった。さらに、NHKに掛け合って『NHK杯』という冠をつけた。びっくりだ。そうこうするうちそれが話題になり、本場のカナダから招待された。

1998年の長野オリンピックでは、地元枠で出場するも、ゲームにならず敗退。でも、オリンピックに出るという目標はいちおう達成した。こうして、広まった。

IV オリンピックに出る選手を育てたい

さらに小栗さんのスゴイところは、子どもたちにも広げようとしたこと。地元の子に。

それも、ただ、広めるだけでなく、運動会なんかで素質のありそうな子を見つけ出し声をかけた。その中に本橋麻里も

いた。この辺にいくと、もう酒屋さんの発想ではない。

小栗さんの本気度が伝わるのは、子供たちに、最初の一年はストーンにさわらせず、徹底して基本のフォームを身につけさせたこと。ただの遊びに終わらせない。強いチームをつくる。小栗さんの目指すところがわかる。

本橋は、それでも楽しかったと回想していた。

大人の本気は子どもにも伝わるのだ。

この小さな町からオリンピックに出る選手を育てたい。

いつのころから小栗さんがそう思うようになったのか。

2018年平昌オリンピックの銅メダルという形で実現した。しかし、それを目にすることはなかった。小栗さんは前年の2017年、88才で他界した。

V スポンサー

本橋は意思を継ぐようにして北見に帰りチームをつくった。

「どうせ失敗するのなら故郷で・・・」

そう思って帰ったと当時は振り返っていた。

やはり、そう容易くはいかなかった。お金の問題は、ずっとつきまとう。小栗さんは自腹だったそう。

ある日、体調を崩した本橋は市内の病院に行った。

そこで医者に問われるまま故郷に帰ったわけを話した。

「資金はあるの？」医者が聞いた。

「ありません」本橋は明るく答えた。

「わかった。自分がスポンサーになろう」医者は言った。

医者は笑いながらインタビューに応えていた。

「そんなに元気にこたえられてもねえ」

『トリトン』の前田社長に電話して本橋のこと、『ロコ・ソラーレ』のことを聞いた。

資金のことも聞いた。

たくさんの北見の会社がスポンサーになっている。もちろん『トリトン』も。でも、最近は大手の会社がスポンサーになってくれているから楽になりましたと笑っていた。

それだけではなく、メンバーの女性たちを雇用しているのだとも聞いた。ただ、これだけ強く有名になると、試合が増えてあまり会社に出てこれないんですよ、とも。笑顔で。

地域が『ロコ・ソラーレ』を支えた。

「本橋さんとはよく会いますよ。空港で」

本橋は、北見に住み、世界を飛び回っている。夢を叶えた。

本橋は、北見の子どもたちに夢をくれた

VI 庄原だって・・・

似た話が庄原にもある『ボディータック こどもミュージカル』大人の本気が庄原に『こどもミュージカル』を根づかせた。いつの日か庄原からミュージカルスターが生まれるかも・・・



誰も見たことのないカーリングが
40年前始まった

